

後期栄養を確保し 品質向上!

長岡農業普及指導センター
稲作情報 No. 6

電話：0258-38-2554
E-mail：ngt111440@pref.niigata.lg.jp

7月20日現在の葉色は指標値並であるものの、一部ほ場では急速に葉色がさめてきています。梅雨明けが早まり、1か月予報（7月15日発表）では気温が高い確率が40%となっており、後期栄養不足が懸念されます。

- コシヒカリの2回目穂肥（出穂期10日前）は必ず施用しましょう。
- 2回目穂肥以降も葉色が薄い場合は、走り穂が出る頃までに追加穂肥の施用を検討しましょう。
- 出穂期25日後まで飽水管理を徹底しましょう。

1 コシヒカリの穂肥による後期栄養確保

- (1) 2回目穂肥は、葉色や後期栄養を維持し、登熟向上と品質低下を防止するため、出穂期10日前に必ず施用しましょう。
- (2) 高温が予測される場合は、下表を参考に、追加（3回目）の穂肥施用を検討しましょう。

表1 分施肥体系

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分 1kg/10a 以下	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分 1kg/10a	有機100%肥料

表2 基肥一発体系

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期までの葉色 SPAD値32～33を下回ると 予想されるとき	出穂期10日前まで 窒素成分 1kg/10a	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期10日前頃の葉色 SPAD値30以下のとき	出穂期10～5日前頃に 窒素成分 2kg/10a	有機100%肥料

2 病虫害対策

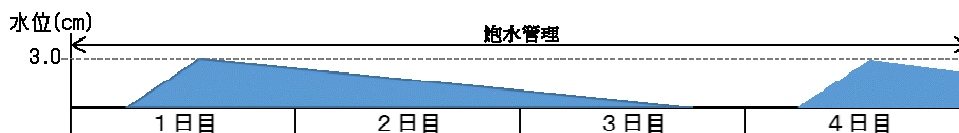
- (1) 夏期が高温の場合、斑点米カメムシ類が多発生しやすくなります。品種ごとに出穂期を確認し、防除適期に合わせ確実に薬剤防除を実施しましょう。また、農道・畦畔の除草及び水田内雑草の除去を徹底しましょう。
- (2) 葉いもちの発生が各地で確認されています。発生を確認したらただちに防除を実施しましょう（コシヒカリBLで少発生の場合は除く）。
- (3) 穂いもちの防除は、予防散布を原則とし、葉いもちの発生程度等から散布回数を決めましょう。

3 今後の水管理

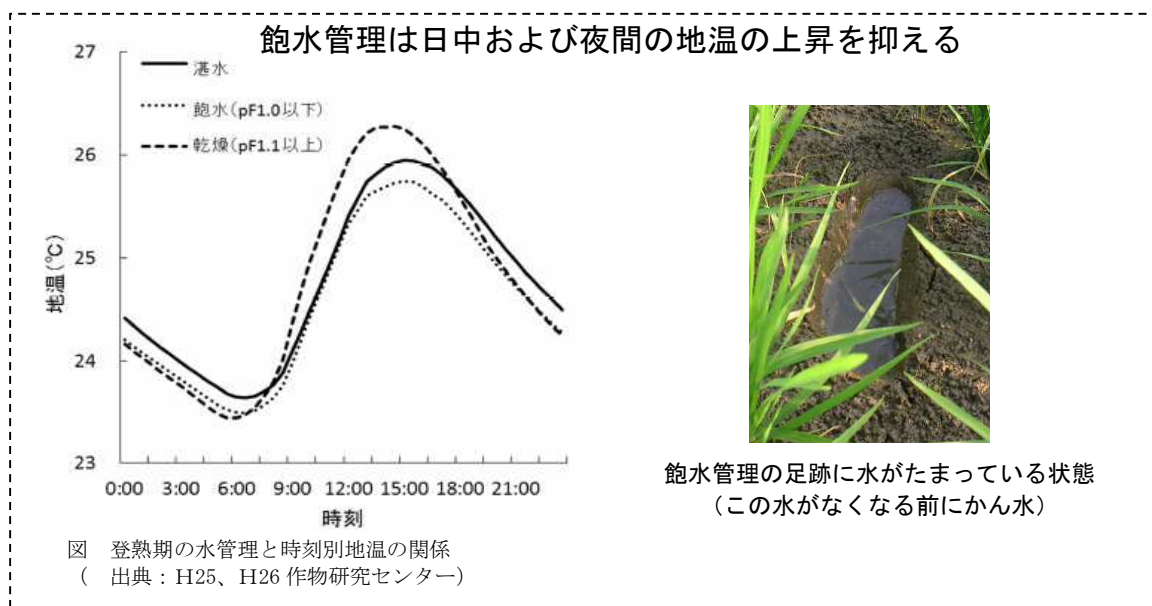
※かけ流し等は行わず、限りある用水を有効に使いましょう

※中干し用に切った溝の手直しを行い、速やかなかん水と秋の排水に備えましょう

(1) 通常時は飽水管理



出穂・開花期は、稲が最も水を必要とする時期です。通常時は、根の活力維持と上根の発生促進のため、飽水管理（田面の水がなくなり、足跡や溝の水がなくなる前にかん水する）を徹底しましょう。



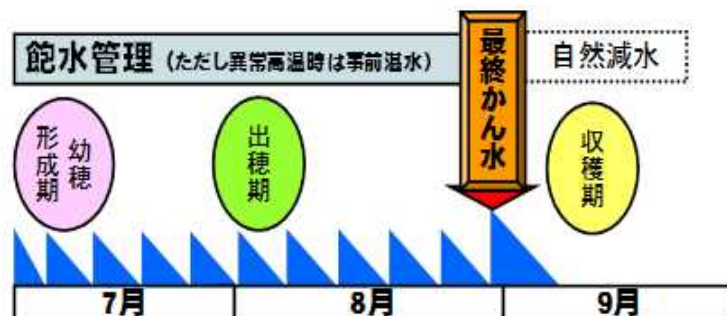
(2) 異常高温時の水管理

異常高温・フェーン時には、稲体からの急激な蒸散による障害の発生を防止するため、地域の用水事情に応じて湛水しましょう。また、フェーン通過後は長期間の湛水は避け、飽水管理へ移行しましょう。

フェーンが2日以上続く場合は、こまめな水管理によりほ場の水温上昇を抑えましょう。

(3) 最終かん水は出穂後 25 日以降

早期落水は、下位葉の枯れ上がりや倒伏を助長し、品質・食味が低下します。最終かん水日は出穂後 25 日以降とし、暗渠栓の開放は可能な限り遅くしましょう。



左図 今後の水管理のイメージ (コシヒカリの場合)

農作業事故、熱中症に注意しましょう